

# 児童生徒の創造性を

## 高めるための教材開発 (第2年次)

— 体験的な活動を重視して —

科学技術教育部

科学技術教育部では平成四・五年度の二か年度にわたり「児童生徒の創造性を高めるための教材開発」という主題で研究を行いました。その第二年次研究の概要を紹介します。

### 一 研究の概要

この研究は、小学校理科と中学校技術・家庭で、現行学習指導要領になって新しく取り上げられた内容、取り扱いが変わった内容などについて、児童生徒の創造的な能力や態度を高めるために、体験的な活動を重視した教材の開発を目的としたものです。第二年次は、技術・家庭に新設された「情報基礎」領域を新しく研究対象に加え、教材の開発を継続するとともに、開発した教材のいくつかについて、実際に授業で試行し、教材の効果や改善点を調べ、教材の改良を行いました。

### 二 第二年次に開発した教材

◎は授業で試行した教材

〈小学校理科〉

- 骨と筋肉のモデル (三年)
- シミュレーションによる昆虫の学習 (三年)

- ◎ 上皿てんびんづくり

(四年、第一年次からの継続)

- ◎ 重さを体感できる胎児モデル (五年)

- めもり付きスライドガラス (五年)

- パソコンを用いた地球の動きと太陽の見え方のシミュレーション (五年)

- 土の中の動物を調べる装置 (六年)
- ◎ はりつけ法による地層モデルづくり (六年)

- 地下ボーリングモデル (六年)

〈中学校技術・家庭〉

- ◎ 栄養バランス君 (一年)

- 食品模型 (一年)

- ◎ BASIC言語学習支援ソフトウェア (三年)

- ◎ アンケートを集計して報告書を作ろう (三年)

これらのうち授業で試行した教材のいくつかを紹介します。

- (1) 重さを体感できる胎児モデル



胎児モデルを腹部につけて横たわっている児童